

実践校に関する事項		
学校区分	学校名	学校長名
高等学校	和歌山県立田辺高等学校	西嶋 淳
学校所在地		
(〒646 - 0024) 和歌山県田辺市学園1-71 Tel 0739 (22) 1880 fax 0739(22)0636		
担当者名	役職名・担当教科	
小竹 博允	総務部ESD推進室長（教諭）・地歴公民科	
<p>〔学校の概要〕</p> <p>明治29年に創立された和歌山県第二尋常中学校（明治34年に和歌山県立田辺中学校と改称）を母胎とし、創立120年を超える伝統校である。「合理的な思考」「豊かな情操」「積極的な行動」を教育目標とし、21世紀に入って力強く、積極的に、心豊かに生きていく力の育成に努めている。現在は普通科と自然科学科（田辺中学校からの接続）の2学科で、生徒は文武両道を目指し、勉強と部活動に励んでいる。</p> <p>2017年からはユネスコスクールとしての活動に取り組み、世界遺産の地にある高等学校として地域学習と異文化理解学習を結びつけた教育活動を展開している。また、総務部ESD推進室を中心に「SDGs達成のための教育」を推進しており、「総合的な探究の時間」では積極的に外部機関と連携し、講演会などを実施しつつ、SDGsを意識した探究学習に取り組んでいる。また、生徒有志の委員会組織である「SEEKER」（シーカー）を結成し、放課後・休日を利用して、高大連携・地域連携・企業連携・国際交流などに取り組んでいる。</p>		
研究実践に関する事項		
対象者児童・生徒	学習支援者等（延人数）	主な活動場所
学年 1・2年生 約560名	7名 職員27名	本校（HR教室・体育館） 熊野古道長尾坂 高野山
実践研究テーマ		
世界遺産の有する地域を深く理解し、グローバルな視点に立って、現代社会の諸課題を探究する。		
実践教科等名	単元名	
総合的な探究の時間 課外活動（SEEKER）	「地域探究」「SDGsスタディツアープランの作成」「なぜ？からつなぐ現代社会の諸課題」「熊野の地から世界を見つめる」「持続可能な地域づくりに貢献する」	
〔キーワード〕 地域の魅力 世界遺産 スタディツアー 国際理解 持続可能な地域 SDGs 多文化共生社会		
〔単元目標〕		
(1) 身近な地域の魅力と可能性を認識する。（知識・技能） (2) 身近な地域の課題を認識する（知識・技能） (3) 身近な地域を含む現代社会の諸課題について、自らテーマを設定し、情報を集めて整理・分析し、課題解決のために自らが考えたことを表現する。（思考力・判断力・表現力） (4) 現代社会の諸課題を自分事にとらえ、他者と協働しながら主体的に行動する姿勢を身に付ける。（学びに向かう力、人間性等） (5) 地域の世界遺産に関する理解を深める（知識・技能） (6) 地域の世界遺産の価値と魅力、今後の課題などを県外の高校生に発信する（思考力・判断力・表現力） (7) 世界遺産の保全活動やフィールドワークを通して、世界遺産を後世に守り伝えていく態度を養う（学びに向かう力、人間性等）		
〔学習に当たった全学習時間数（世界遺産学習に関わる時間数及び 学習活動名／教材名）〕		
全体34時間（講演会3時間、探究活動20時間、長尾坂道普請3時間、次世代育成事業6時間、学習交流会2時間）		
〔地域および文化財管理者等との連携の実施状況〕		
(1) 田辺市企画広報課 …田辺市長講演会「田辺市の未来につながるまちづくり」の実施 (2) 橿南紀白浜エアポート …講演会「空港型地方創生」の実施 (3) 立命館大学経済学部 …講演会「SDGsスタディツアープランの作り方」の実施、探究活動の支援 (4) 田辺市教育委員会文化振興課・田辺市熊野本宮館 …熊野古道長尾坂の道普請の技術指導 (5) 田辺ライオンズクラブ …熊野古道長尾坂の道普請における共同作業および経済的支援 (6) 和歌山県世界遺産センター …次世代育成事業（世界遺産講座） (7) 世界遺産マスター …次世代育成事業（現地学習） (8) 盛岡中央高等学校 …世界遺産学習オンライン交流会（地元の世界遺産についての探究成果を相互に発表）		

実践校に関する事項			
〔单元指導計画概要〕			
	主な学習活動	学習への支援	評価方法等
1	1 学年総合的な探究の時間 地域探究…身近な地域の魅力を課題について、SDGsの視点を意識しながら探究する。	田辺市の真砂市長や(株)南紀白浜エアポート岡田社長の講演により、田辺市や紀南地方の魅力や地方創生の取り組みについてヒントを与えた。	ワークシートや振り返りアンケートなどをもとに観点別に評価する。
2	1 学年総合的な探究の時間 SDGs スタディツアープランの作成…グループでテーマを設定し、地域の関係人口を創出するためのツアーを考案する。	立命館大学経済学部峯俊教授の講演により、地域の魅力を発信して関係人口を創出することが持続可能な地域づくりにとって重要であることを学んだ。	ワークシートやプレゼンテーションなどをもとに観点別に評価する。
3	2 学年総合的な探究の時間 なぜ？からつながる現代社会の諸課題…個人の興味・関心にもとづく探究テーマを設定し、探究コンテストに挑戦する。	ブラジル和歌山県人会との交流により地域と世界とのつながりを実感し、人口減少にともなう諸課題を解決するためにグローバルな視点が重要であることを学んだ。	ワークシートやプレゼンテーションなどをもとに観点別に評価する。
4	課外活動 (SEEKER) 熊野古道長尾坂の道普請…長尾坂にて、土に埋もれている石畳を掘り出す作業や、木製の階段の補修作業を行う。	世界遺産熊野本宮館や田辺市文化振興課の技術指導のもと、道普請を行った。	活動を振り返り、学んだこと・感じたことなどをポートフォリオに入力し、自己評価する。
5	課外活動 (SEEKER) 次世代育成事業…世界遺産講座を受講した後、高野山でフィールドワークを行い、学んだことを県外の高校生に発信する。	世界遺産センター職員や世界遺産マスターから説明を受けた。また、アウトプットする機会として、盛岡中央高校との世界遺産学習オンライン交流会を企画した。	活動を振り返り、学んだこと・感じたことなどをポートフォリオに入力し、自己評価する。
〔单元学習の成果と課題〕			
<p>総合的な探究の時間を通じて、生徒の地域理解が深まった。1年次では世界文化遺産を含む地域の魅力を再発見し、生徒が多角的に地域を見つめなおすことができた。2年次では、人口減少にともなう諸課題を認識したうえで、グローバルな視点で地域をとらえ、持続可能な地域づくりに参画することの重要性に気づかせることができたのではないかと考えている。また、課外活動に取り組む委員会組織 (SEEKER) のなかに「世界遺産探究チーム」を結成し、フィールドワークを中心とする活動に取り組んだ。世界遺産に関するコンテスト「世界遺産×SDGs チャレンジ！」(世界遺産検定) に自主的に挑戦する生徒がでてくるなど、生徒の主体的な探究活動につながった。連携していただいた外部機関の皆様方のご支援・ご協力のおかげで、地域の貴重な世界遺産を後世に守り伝えていくことの大切さを生徒たちに伝えることができた。</p> <p>今年度は、高野山フィールドワークの実施時期が感染症の流行と重なったため、当初の想定よりも参加生徒数が少なかった。より多くの生徒が課外活動に参加し、地元の世界遺産についての体験的な学びをしてもらいたいと考えている。</p>			
〔世界遺産学習の効果〕			
<p>地元世界的な価値を認められた文化遺産があることを知り、世界遺産講座などを通じて、「なぜ、地元の文化財が世界遺産に登録されているのか?」「なぜ、わざわざ外国から多くの方々を訪れるのか?」を理解することで、地元地域への関心が高まり、地元を誇りをもつことにもつながった。熊野古道の道普請や高野山フィールドワークでは、生徒たちが生き生きと作業や学習をする姿が見受けられ、校外学習の効果を実感した。世界遺産に関する探究コンテストや県外の高校とのオンライン交流会に自ら参加する生徒が現れ、主体的な学びにつながっている。「世界遺産」という切り口から、地域課題の解決や持続可能な地域づくりを考える視座を得て、生徒個々の探究活動にも良い影響を与えている。国際交流の機会においても、地元の世界遺産を海外の高校生などに紹介するなど、世界遺産学習は地元の魅力を発信する場面でも役立っている。</p>			
〔世界遺産学習の今後の方向性及び改善点について〕			
<p>地域の世界遺産を後世に守り伝えていくためには、地域を持続可能にしていくことが不可欠である。地域が直面する人口減少という喫緊の課題を認識したうえで、地域課題解決のための探究活動を展開することは、とても意義深い教育活動であると考えている。そのなかで、地域資源としての世界遺産に着目し、世界遺産を観光業などの地域経済の活性化、関係人口の創出、などにどのようにつなげていくのかを探究していければと考えている。また、世界遺産「紀伊山地の霊場と参詣道」を理解するために、地元地域にフォーカスするだけでなく、紀伊半島全体におよぶ広域的な視野をもち、熊野・高野山・吉野、そして熊野古道を関連付けながら学習することが重要である。そのために、年度ごとに高野山・熊野など場所を変えながらフィールドワークを実施していきたい。そのために、今後も継続して次世代育成事業に関わらせていただければ幸いである。</p>			

様式 2

令和5年度 「次世代育成事業」における学習記録

[概要報告書 学習記録・活動写真]

【事前学習】

11月10日（金）の放課後、和歌山県世界遺産センター職員による世界遺産講座を受講した。世界遺産の種類や登録状況など、世界遺産の概要を学んだ。そして、「紀伊山地の霊場と参詣道」について、具体的な構成資産をご紹介いただきながら、その文化的価値などをご教示いただいた。高野山フィールドワークの事前学習としても、とても有意義な講座であった。

【高野山フィールドワーク】

12月9日（土）、高野山でフィールドワークを実施していただいた。課外活動に取り組む委員会であるSEEKERのメンバーが参加した。季節外れの暖かさと晴天に恵まれ、高野山の歴史と自然を満喫できる絶好の天候であった。

11:00～14:30まで、世界遺産マスターさんに解説をしていただきながら、高野山の歴史・文化から植物に至るまで、世界遺産・高野山について詳細に学ばせていただいた。午前中は壇上伽藍を出発し、金剛峯寺に至るルート歩きながら学習した。高野山を代表する文化財の数々を見学し、解説を聴くことでその価値をより深く認識することができた。午後は奥之院を見学した。歴史上有名な人物の墓が建ち並ぶ空間を目の当たりにし、高野山という場所がもつ特殊性を実感した。また、御廟を見学し、荘厳かつ神秘的な雰囲気を感じ、弘法大師空海への信仰を具体的に学ぶことができた。最後に平和橋の近くでマスターさんが語ってくれた、仏教の聖地・高野山で平和への祈りが捧げ続けられているというお話が、今も世界各地で紛争が続いていることを想起すると、とても印象深かった。

以下、高野山フィールドワークに参加した生徒の感想である。

- ・ 1つ1つの建物にたくさんの人が関わっているという歴史について詳しく知れた。人以外にも、建物の建て方の工夫やその建物にまつわる伝説などを詳しく教えてもらったのでさらに興味が湧いた。今までにも何回か高野山に入ったことがあったが、詳しいことを勉強しながら見て回ったりしたことはなかったのでとても良い経験だった。
- ・ 有意義な時間を過ごすことができとてもよかったです。高野山についての歴史や文化を深く深く学べました。さらには、今まで知らなかった正式な参拝方法を学ぶことができ面白かったです。家に帰ってから思わず両親に色々教えたくなり、いつのまにか高野山のことについて語ってしまいました。またこのような活動があれば参加したいです。
- ・ 世界遺産マスターの方に朝は金剛峯寺の周辺を説明していただき、昼からは奥の院までの約1.9kmを歩きながら色々なことを説明してもらった。この日はまだ暖かい方だったので歩きやすかったし、とても空気が澄んでいて気持ちよかったです。門に建てられた仏像の歴史や、奥の院に収められた供養塔の歴史などを知ることが出来て良かった。空海が今もいるとされているところに入ったけど、今いる世界の空気感と少し違う感じがしたのを今でも忘れられない。とてもいい経験になった。今もなお高野山で禁止されている食べ物を楽しく会話しながら知ることが出来てもっと高野山に興味を持ったので、自分でも調べる機会を作ろうと思った。
- ・ 高野山に関する様々な知識や、歴史で習った織田信長や豊臣秀吉、石田三成などの人物の供養塔を実際に目にしたりして、高野山の歴史の面白さや深さを知ることができて良かったと思った。今まで知らなかった、高野山にある建物に関する歴史はもちろん、杉とヒノキの見分け方や、コケやシダの種類など、自然に関することも色々知ることができた。供養塔や建築物を見ていると、江戸時代のもの、明治時代のものなどがあり、昔のものを実際に目にしていることがなんだかとても不思議に感じた。町石道の歴史はとても古くからあり、それが今まで語り継がれていることの凄さに気づいた。これからも、町石道、高野山のことについて、語り継がれていくべきだと学んだ。

